

## I G S 総会と役員・理事の選挙

I G S 理事 赤木 俊允

本年9月5-9日にシンガポールで開催される第5回国際ジオテキスタイル学会の期間中に、9月6日(火)14:00-17:00、I G S 総会が開催される。ここで予定されている議題のうち、特に注目されるのは、I G S の会長、副会長を含む役員および理事の選挙と、1992年福岡での理事会で決められた学会名称変更案の採否である。I G S における総会と選挙の方式について、以下に簡単な説明を試みることにしたい。

### 総会 (Ordinary General Assembly)

I G S 総会は本来全会員が出席し、I G S に関する重要事項を審議し決定するための会合である。4年に1回のI G S 国際会議の開催中に、半日を割いて開かれることになっている。総会の議題は会長、事務局長、経理担当理事の報告の他、学会活動に関する重要案件の採択、次期国際会議および次期総会の場所・日時の決定、会長・副会長の選挙、予め郵便投票済みの新理事の発表などである。

総会において採択を要する案件については、出席者による投票が行われる。内規によれば、出席する会員は、欠席会員からの委任状による代理投票権 (Proxy) を最大5人分まで行使することができる。この代理投票権は、総会での投票権のみならず、40%の会員の出席 (代理出席を含む) を要する総会の成立要件としても必要とされる。尤もこの定足数が満たされない場合には、理事会は直ちに定足数を必要としない総会 (Replacement General Assembly) に切り替え、これを召集することができることになっている。

1994年9月のシンガポール総会に関する予定としては、事務局長は6月初旬に、各会員に対して総会出席用の投票者IDカード (Voter Identification Card) を送付することになっている。この時には後述する郵便投票のための用紙なども一緒に送付する予定になっている。

国際会議場では特別に総会出席のための登録用デスクが設けられるので、ここで投票者IDカードを提示し、投票用紙などの入った袋 (Voting Package) を受け取る。欠席する会員から代理投票権の委任を受けている者は、欠席会員がサインしたIDカードを提示し、その分の袋を受けとることとなる。前述のように、代理投票権を委任された会員は自分のものの他に、最大で5人分のパッケージを受け取ることができる。

総会における投票は、出席者が手持ちの数のカードを掲げて意志表示する投票 (Voting by Show of Hands) と、手持ちの数の投票用紙に賛否を書き込んで投票箱に投入する投票 (Secret Ballot) との二通りがある。会長選挙など人事に関するものは後者による。個人会員には緑色のカード、法人会員には黄色のカードと投票用紙がパッケージに入れてあり、前者は一枚につき1票、後者は一枚につき5票と、カウントされることになっている。

総会中に行われる会長・副会長の選挙は、最初の投票で過半数を得る候補者が出ればそ

れで決定となる。もし過半数を得る者が無ければ、第2回目の投票を行うが、内規によれば、ここで新たに立候補することも可能とされている。2回目の選挙においては、過半数に達しなくても、最大数の票を獲得したものが当選者となる。

総会の議題に対して、もし日本支部の意向を明確に反映させる必要があるとすれば、出席できない会員からは予め代理投票権の委任を受けておき、これを有効に行使すべきであろう。欠席する会員からは、サイン済みのIDカードを日本支部宛に送って頂くようにし、出席する会員に適宜分配して、日本支部としての統一的な意志表示をする可能性も考えておくべきであろう。なお、総会の議題、代理投票権の行使などについての詳しい説明は、IGS NEWS 7月号に掲載される。

### 1994年9月のシンガポール総会における役員・理事の選挙

この総会においては、会長、副会長、および8人の新理事、さらには新たに事務局長、経理担当理事が選出されることになっている。理事選挙に関する立候補届けは、最初2月14日迄に提出されねばならないことになっていたが、現在のところ5月10日迄に締切日が延長されている。

現在既に10人の理事候補が出現しているので、総会3ヶ月前の6月初旬頃に、IGSの全会員に対して新理事選出のための郵便投票用紙が郵送・配布される。郵便投票の結果は上記のごとく、総会において新会長・副会長が選出された直後に決定され発表されることになっている。

会長、副会長に立候補しようとする会員は、できるだけ早い段階でその意思を表明することが期待されているが、内規によれば、総会における選挙の直前まで立候補できることになっている。理事候補と同じタイミングでその意図を事務局長宛に届けておけば、略歴などがIGS NEWSに掲載されるので、会員間に周知されることになる。

3月下旬現在、会長にはC.J.F.P. Jones (英)、副会長にはR.J. Bathurst (加)、理事には次の10名が立候補している：D. Cazzuffi (伊)、J-P Gourc (仏)、G. Heerten (独)、R.D. Holtz (米)、D. Leshchinsky (米)、J.N. Mandal (印)、C.V.J. Varma (印)、P. Rimoldi (伊)、F. Tatsuoka (日)、W. Voskamp (蘭)。上記の各候補者の略歴は、間もなく本部から直送されてくる英文のIGS NEWSの3月号に掲載されている。

ちなみに9月の総会時点で、1992年に選出され未だ2年の任期を残している理事は、C.J.F.P. Jones (英)、R.J. Bathurst (加)、T. Akagi (日)、B.R. Christopher (米)、R.A. Jewell (ベルギー)、C. Lawson (英)の6人で、欠員が2人となる。この内最初に挙げた2名がそれぞれ会長、副会長に立候補しているので、現状のままではシンガポールの総会後の理事会体制がやや手薄になるのではないかと懸念される。

IGSの役員とは、会長、副会長、前会長、経理担当理事、事務局長の5名を指すのであるが、今回の総会開催時には、最後の2つのポストも改選されることになっている。つまり、経理担当理事、事務局長は、総会直後の新理事会において、理事会のメンバーの中から選出される。IGS理事会は、上記の選挙による理事の他に、CO-OPTIONと称する理事の任命制度を有しているので、おそらくはこの制度により、新理事会が何名かの会員を理事に任命することになると思われる。内規によれば、理事は任期が4年で2期迄再選されることができ、その後はCO-OPTIONによってもう一度、次期総会までの任期で理事に任命されることができ、

現事務局長である W. Voskamp (蘭) は、今度の選挙で理事に選出されれば、再び事務局長か、あるいは経理担当理事を引き受けてもよいとしている。現経理担当理事である P.E. Stevenson (米) は、既に2期目の理事であるので任期切れとなるが、もし新理事会によって CO-OPT されれば引き続き経理を担当してもよい、との意志を表明している。

内規によれば、郵便投票による理事選挙の方式は以下のごとくである。6月初旬には全会員に対し、IDカードその他と共に、候補者全員の名前が印刷された郵便投票用紙が送られて来る。日本支部としては、この時点で我が国の全会員に対し、具体的な投票手順などについて、日本語の解説文を配布する予定である。棄権は出来るだけ避けるよう、今からお願いしておきたい。

投票者は自らの好みの候補者に対して1, 2, 3, … n, と順位を付ける。ここで n は定員数であるが、定員数全部の候補者に順位を付ける必要はない。定員数以下の候補者にとどめ、あとはブランクのまま残しておいてもよいのであるが、順位を示す番号が途中で欠けてはならない、つまり順位を示す番号は連続していなければ無効票になってしまうので注意を要する。この投票用紙は、締切日までに各会員が直接本部へ返送しなければならない。締切日は投票用紙上に明示されるが、総会の約一ヶ月前、8月1日にする予定となっている。

開票事務は事務局長の責任下で実施されるが、会長によって承認された少なくとも2人の会員が投票結果を確認する。選挙結果は直ちに会長に送付されるが、総会までは非公開に保たれる。投票結果の整理は以下のように、やや風変りで面倒である。

投票用紙上に印刷されている n 人の候補者に対して、1, 2, 3, … n までの順位が付けられている場合には、1の番号を付された候補者には n 点、2の番号を付された候補者には n - 1 点、…、nの番号を付された候補者には1点が与えられる。ブランクのまま番号を付けて貰えなかった候補者は0点となる。このようにして各候補者が得た点数を総計し、総得点の順番に候補者の名前が並べられる。

前記のごとく、総会において会長・副会長の選挙が終了した直後、この両者あるいは片方が上記の新理事候補のリストにある場合はそれを取り除き、順位の高いものから新理事当選が決定される。

#### 学会の名称変更：ジオテキスタイルからジオシンセティックスへ

我々の学会の名称を、国際ジオテキスタイル学会から国際ジオシンセティックス学会へと変更しようという案が、1992年11月福岡で開催された理事会で決定されたが、これに対しては、総会に先立って郵便投票が実施される予定になっている。この変更案については、本誌1992年12月号の理事会報告 (p. 25) に述べた通りであるが、その部分を以下に再録する。

IGS の名称変更：この件に関しては過去数年にわたって議論が交わされてきた。その論点は、国際ジオテキスタイル学会という名称の中のジオテキスタイルでは、対象とする種々の材料や製品をカバーしきれなくなっており、学会名にはこれに代わるより適切な表現が用いられるべきである、というものである。長期にわたる議論を受け、前回の理事会で2案に絞り各支部にその意見を問い合わせた。6支部から返答が寄せられたが、意見は割れたままである (現状のまま1票、B1案3票、B2案2票)。今回再び、長時間にわたる熱心な議論の末、学会 (略称は IGS で変更なし) および4年毎の IGS 主催の国際会議の名

称としては、次のような表現が理事会案として承認された。

学会名：IGS, the International Geosynthetics Society

Dedicated to the scientific and engineering development of  
geotextiles, geomembranes, related products and associated  
technologies

IGS 主催の国際学会の名称：International Conference on Geosynthetics

- Geotextiles, Geomembranes, Related Products  
and Associated Technologies -

今後の手続きとしては、次回の理事選挙の際に、全 IGS 会員による郵便投票にかけられ上記の案が可決されれば本決りとなる。名称変更に関しては、IGS News に既に数篇の論説が掲載されているが、IGS 本部としても郵便投票までには、今までのいきさつや主旨について更に一層の徹底を計るべく、全会員に対する PR を続ける予定である。

IGS NEWS では、その後もこの件に関する PR が行われ、世界の趨勢は上記の理事会による変更案に集約されつつあるように思われる。いよいよ郵便投票による最終決定の時期が近付いて来たわけで、これを機に今一度会員諸氏の御考慮を患わしたい。

#### シンガポール国際会議（5 IGC）

シンガポールの国際会議組織委員会では現在のところ、全体で700-800名程度の参加者を予想している。特に日本からはアジアの経済大国として、また過去の参加実績からして、会議登録者数と展示会のスポンサー数に期待するところ大なるものがある。当初は、より多くの日本人参加者を誘致する方策として、会議中には日英同時通訳のサービスを予定していたくらいである。

会議中には大規模な展示会が計画されており、欧米諸国からは既に相当数の申し込みがあったと伝えられているが、現在のところ我が国からの出展予定はゼロである。このところの厳しい経済不況を反映するものであろうけれども、シンガポールの組織委員会は失望の色を隠していないし、我々日本支部としても何とかならないものかと憂慮しているところである。本年1月、ニューデリで開催された第13回国際土質基礎工学会議への日本人参加者は約100名、我が国からの展示は僅かに2件と、従来の実績に比べて大幅に少ない状況であった。この9月にはまだ、余り多くを望むことは困難であろうし、会議中の日英同時通訳の可能性は現時点ではほぼ無くなったように思われる。

シンガポールの組織委員会からは、もっとサポートを頼む、との要請が幾度も来ているが、アジア地域では初めてのこの会議を成功させるべく、会議への参加と展示会への出展については、会員各位の一層の御理解と格別の御協力をお願いする次第である。